



ふるさとを誇り 未来を拓くまち ～ 鹿角の未来をつくる教育の推進 ～

充実した教育環境の実現に向けて

鹿角市新たな学校づくり推進計画(素案)
(令和9年度～令和18年度)

計画策定の趣旨

鹿角市では、平成27年度に鹿角市立学校等再編計画を策定し、平成28年度～令和2年度までの5年間で、小学校を9校から6校に、中学校を5校から4校に再編し、児童生徒一人ひとりにきめ細やかな教育を行ってきています。

しかし・・・

- 少子化に伴う児童生徒数の減少に歯止めがかからず・・・
 - ・ 学校の小規模化が進行 ・ 複式学級の発生 ・ 部活動存続の制約
- 集団の規模が小さくなることにより・・・
 - ・ 学校の活力の低下 ・ 学び合いの機会の減少 ・ 教職員の配置数の減少
- 建築後40年以上を経過した学校施設が大半で、老朽化が深刻となっている

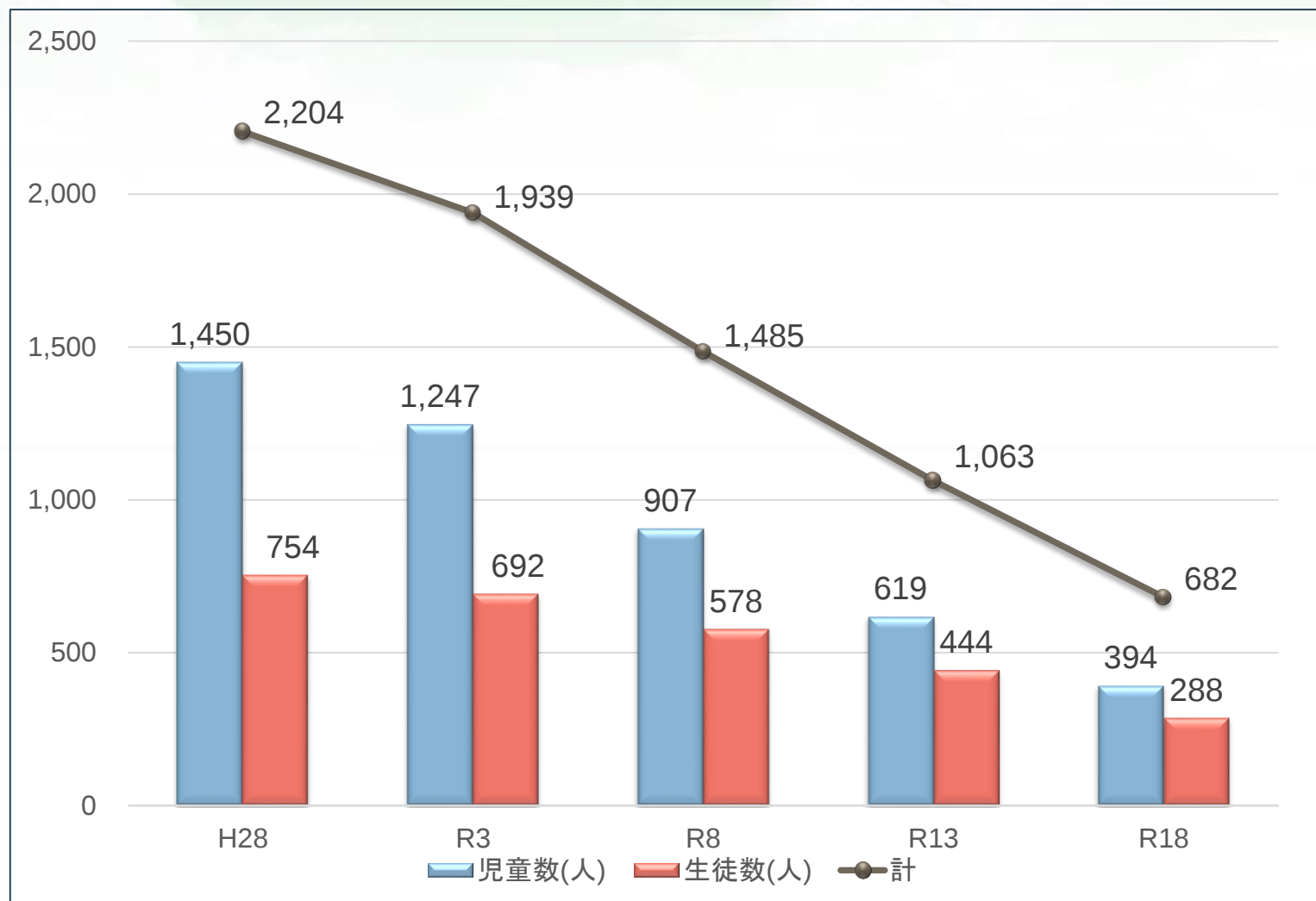
適正な学校運営や児童生徒の指導が困難となることが予測されます

このような現状を踏まえて

本市の将来を担う児童生徒にとって望ましい教育環境を整備し教育の充実を図るため、学校規模の適正化や施設の整備は急務であることから計画を策定するものです。

児童生徒数の推移

平成28年度から令和8年度までの10年間で、719人（約33%）減少
令和8年度から18年度までの10年間で、803人（約54%）減少する見込み



・各校の児童生徒数と学級数の現状と今後の見込み

		R8							R11							R14							R19
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	全校合計
花輪小学校	児童数	61	60	62	57	57	52	349	35	37	51	61	60	62	306	36	34	51	35	37	51	244	189
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	1	2	1	2	2	10	-
柴平小学校	児童数	23	12	22	29	23	33	142	12	21	23	23	12	22	113	11	9	15	12	21	23	91	57
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	-
十和田小学校	児童数	29	41	28	39	35	42	214	20	24	31	29	41	28	173	15	18	19	20	24	31	127	76
	学級数	1	2	1	2	1	2	9	1	1	1	1	2	1	7	1	1	1	1	1	1	6	-
大湯小学校	児童数	7	9	9	21	15	25	86	2	5	4	7	9	9	36	2	1	7	2	5	4	21	12
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1(複式)		1(複式)		1	1	4	1(複式)		1(複式)		1(複式)		3	-
尾去沢小学校	児童数	5	5	10	5	3	9	37	2	6	4	5	5	10	32	5	1	4	2	6	4	22	26
	学級数	1	1(複式)		1(複式)		1	4	1(複式)		1(複式)		1(複式)		3	1(複式)		1(複式)		1(複式)		3	-
八幡平小学校	児童数	13	11	9	15	16	15	79	13	11	12	13	11	9	69	4	5	4	13	11	12	49	21
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1(複式)		1	1	1	5	-
小学校合計	児童数	138	138	140	166	149	176	907	84	104	125	138	138	140	729	73	68	100	84	104	125	554	381

		R8				R11				R14				R19
		1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	全校合計
花輪中学校	生徒数	94	86	107	287	86	80	85	251	84	72	84	240	156
	学級数	3	3	3	9	3	3	3	9	3	2	3	8	-
十和田中学校	生徒数	56	69	61	186	60	50	67	177	36	50	37	123	67
	学級数	2	2	2	6	2	2	2	6	1	2	2	5	-
尾去沢中学校	生徒数	21	11	12	44	5	3	9	17	5	5	10	20	7
	学級数	1	1	1	3	1(複式)		1	2	1	1	1	3	-
八幡平中学校	生徒数	19	16	26	61	15	16	15	46	13	11	9	33	22
	学級数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	-
中学校合計	生徒数	190	182	206	578	166	149	176	491	138	138	140	416	252

・地区別出生数の推移

本市の出生数は、平成30年度は140人、令和5年度は101人と緩やかな減少傾向となっておりますが、令和6年度の出生数は65人と急激に減少しており、令和7年度の出生数は73人と若干増加したものの、以降も減少傾向を辿ると推計しています。

地区	H30	R5	R6	R7	R10 見込み	R13 見込み	R16 見込み	R19 見込み
花輪	56	52	29	36	31	26	23	20
柴平	19	15	8	11	9	8	7	6
十和田	40	19	20	15	12	10	9	9
大湯	10	6	1	2	2	2	1	1
尾去沢	4	4	1	5	4	4	3	3
八幡平	11	5	6	4	3	3	2	2
合計	140	101	65	73	61	53	45	41

・学校施設の整備状況

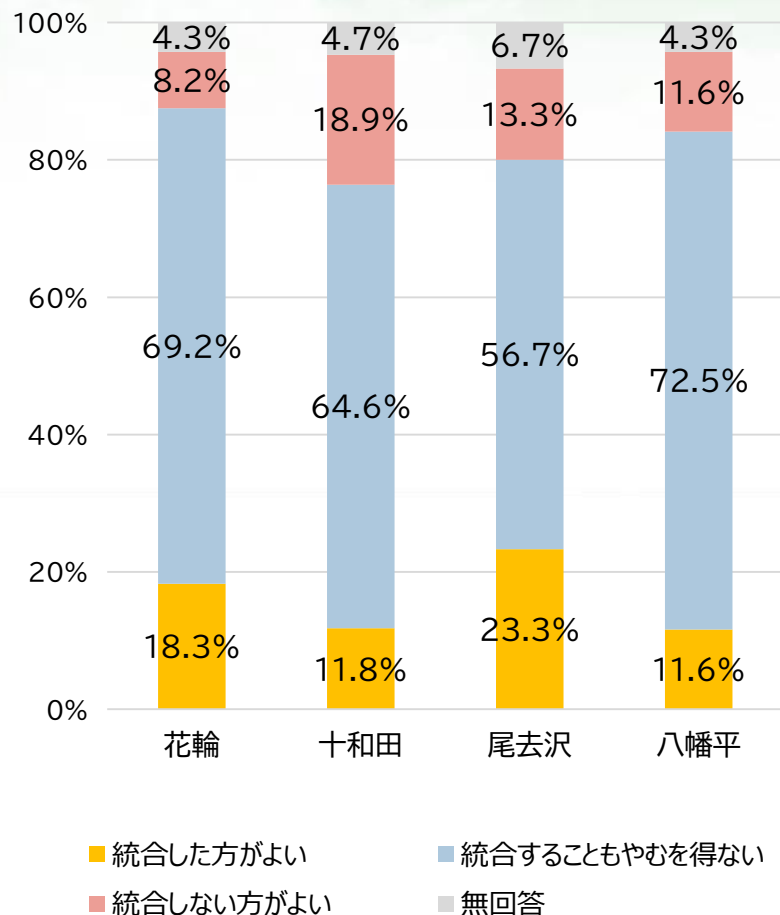
本市の学校施設は、耐震化対策はすべて完了していますが、近年は豪雨災害も懸念され、特に十和田小中学校は、「洪水浸水想定区域図」において浸水深3m以上の想定区域となっており、学校移設を含めた対応の検討が必要です。また、建築から40年以上経過している学校が多く、老朽化が深刻となっており、臨時的な修繕費用がこれまで以上に掛かっていくことが考えられるほか、学校によっては大規模改修が必要となることを見込まれます。

学校名	区分	現有棟数					大規模改造 実施年度
		棟数	構造	建築年	経過年数 (R7年度 未現在)	面積(m ²)	
花輪小学校	校舎	1	R	H18-H19	19	6,335	-
	屋体	1	R	H19	18	1,248	
柴平小学校	校舎	1	R	S57	43	2,743	R2
	屋体	2	S	S57	43	1,263	
十和田小学校	校舎	7	R	S49-S51	51	4,958	H14-H16
	屋体	2	S	S51	49	951	
大湯小学校	校舎	2	R	S53	47	3,499	H26-H27
	屋体	2	S	S54	46	935	
尾去沢小学校	校舎	4	R	S46-S47	54	4,374	H22-H23
	屋体	1	S	S47	53	658	
八幡平小学校	校舎	8	R	S46-S48	54	4,925	H9-H11 H15-H16
	屋体	3	S	S48	52	1,119	
花輪中学校	校舎	1	R	S59	41	6,172	R1
	屋体	2	S	S59	41	1,740	
十和田中学校	校舎	6	R	S46-S47	54	5,809	H2-4 H14、H18
	屋体	1	S	H22	15	1,264	
尾去沢中学校	校舎	1	R	H8	29	3,050	-
	屋体	2	R	H8	29	1,224	
八幡平中学校	校舎	5	R	H24	13	3,619	-
	屋体	2	R	H24	13	1,482	

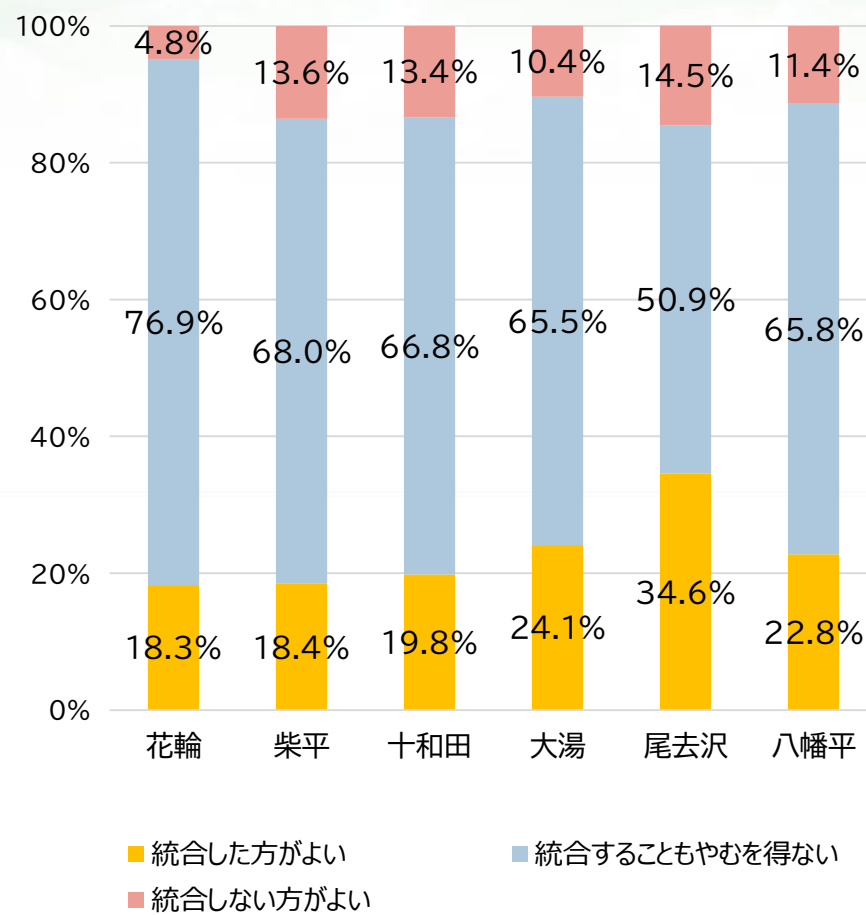
R…鉄筋コンクリート造 S…鉄骨造

令和7年度学校の再編・統合に係るアンケートの結果について

市民アンケート結果



保護者アンケート結果



【学校再編の必要性】

適正な学校規模の形成による活力ある学校づくり

～～児童生徒数や学級数の減少が及ぼす影響の例～～

学習面

- きめ細かな指導が行いやすく、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい

- ともに努力してよりよい集団を目指す学級間の相互啓発がなされにくい

- 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい

- グループ学習や習熟度別学習など多様な学習・指導形態を取りにくい

- 中学校では各教科の免許を持つ教員を配置しにくい

- 部活動等の設置が限定され選択の幅が狭まりやすい

生活面

- 児童生徒相互の人間関係が深まりやすく、異学年間の縦の交流が生まれやすい

- クラス替えが困難なことなどから人間関係や相互の評価等が固定化しやすい

- 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい

- 組織的な体制が組みにくく指導方法等に制約が生じやすい

- 中学校に進学する際、小規模な小学校からの新生がこれまでの学校生活との違いに戸惑いを感じるケースがある

学校運営面

- 全教職員間の意思疎通や相互の連携が図りやすい

- 教職員数が少ないため経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい

- 学年別や教科別の教職員同士で学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい

- 特定の教職員に複数の校務分掌が集中しやすい

- 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい

その他

- 保護者や地域社会との連携が図りやすい

- PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい

【学校再編の基本的な考え方】

再編にあたっての基本方針

児童生徒が置かれる環境の大きな変化に対する配慮

学校の再編により、児童生徒が置かれる環境は大きく変化するため、新たな人間関係がスムーズに構築されるよう、対象校同士の交流の機会を設けることや、統合後の教員配置にも配慮します。

地域の実情を十分に踏まえた保護者および地域の方との協議を実施

地域と学校との結びつきは非常に強いものであることから、再編にあたっては地域の実情を踏まえたうえで、保護者および地域住民と十分に協議を行っていきます。

安全で安心な教育環境の充実にに向けた施設整備の実施

再編にあたっての学校施設等の整備については、既存施設の耐用年数や学校の位置などを総合的に勘案し、既存施設の改築、あるいは新設についての検討を行ったうえで、必要な整備を行い、教育環境の充実に図ります。

再編にあたっての基本方針

通学距離の延長に対応したスクールバスなどの通学支援策を実施

学校の再編により、通学距離が長くなる場合には、安全・安心な通学を視野にスクールバスなどの通学支援策の実施を検討します。

計画期間・・・令和９年度から令和１８年度

計画の期間は、令和９年度から令和１８年度までとし、保護者及び地域住民との協議を十分に行います。

制度や社会情勢の変化などの必要に応じた計画の見直し

計画については、国や県の学級編制基準などの制度が変更になった場合や、社会情勢の変化などにより見直しの必要が生じたときは、随時見直していきます。

再編の基準

過小規模校の解消【小学校・中学校】

多様な考え方に触れる機会を増やすとともに、教師の直接的な指導を受けられる時間が不足する複式学級の解消を図ります。

また、多人数による学校活動・クラブ活動の活性化、クラス替え等による固定化されない人間関係の構築などを目的として、1学年1学級の解消を図ります。

旧町村単位の地区を超えた学校の配置【小学校・中学校】

地域コミュニティの中核施設としての側面もあることから、各地区に1校の小学校を維持してきましたが、さらなる児童生徒数の減少が見込まれることから、児童生徒にとって望ましい学習環境の確保について慎重に判断し、適正な学校配置を検討します。

【想定される再編案】

1. 尾去沢小学校と花輪小学校との統合（令和 1 1 年 4 月から） 及び八幡平小学校との統合（令和 1 4 年 4 月から）

尾去沢小学校は複式学級が令和 8 年度現在で 2 学級生じており、令和 9 年度においては全学年が複式学級となる見込みです。

八幡平小学校でも複式学級が令和 1 4 年度から発生する見込みであり、その解消を図る必要があります。

尾去沢小学校と八幡平小学校の複式学級の解消を図るため、両校とも最も近距離に位置している花輪小学校との統合を進め、尾去沢小学校は令和 1 1 年度に、八幡平小学校は令和 1 4 年度に統合します。統合校舎は現在の花輪小学校校舎とします。

居住地域により統合後の通学距離が遠距離となる地区は、通学支援策を実施します。

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
花輪小学校	349人 12学級	348人 12学級	328人 12学級	338人 12学級	321人 12学級	291人 11学級	315人 12学級
尾去沢小学校	37人 4学級	32人 3学級	35人 4学級				
八幡平小学校	79人 6学級	76人 6学級	71人 6学級	69人 6学級	64人 6学級	58人 6学級	

2. 大湯小学校と十和田小学校との統合（令和12年4月から）

大湯小学校は複式学級が令和9年度から発生する見込みであり、令和13年度には全学級が複式学級となる見込みであるため、その解消を図るとともに、将来的に十和田中学校に進学することとなることから、その際の学習環境の変化等の状況を踏まえ、十和田小学校との統合を進めます。統合校舎は現在の十和田小学校校舎とします。

居住地域により統合後の通学距離が遠距離となる地区は、通学支援策を実施します。

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
十和田小学校	214人 9学級	203人 8学級	192人 8学級	173人 7学級	198人 7学級	167人 6学級	148人 6学級
大湯小学校	86人 6学級	65人 5学級	55人 5学級	36人 4学級			

3. 尾去沢中学校と花輪中学校との統合（令和11年4月から） 及び八幡平中学校との統合（令和14年4月から）

尾去沢中学校は令和11年度から複式学級が発生する見込みとなっていることから、その解消を図る必要があります。また、八幡平中学校では複式学級こそ発生しないものの、10人を下回る学年が発生する見込みとなっており、小規模化が進むことから、その解消を図る必要があります。

尾去沢小学校と花輪小学校及び八幡平小学校との統合に合わせ、中学校も同様に、最も近距離である花輪中学校との統合を進めます。統合校舎は、現在の花輪中学校校舎とします。

居住地域により統合後の通学距離が遠距離となる地区は、通学支援策を実施します。

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
花輪中学校	287人 9学級	265人 9学級	259人 9学級	268人 9学級	268人 9学級	262人 9学級	293人 9学級
尾去沢中学校	44人 3学級	41人 3学級	33人 3学級				
八幡平中学校	61人 3学級	50人 3学級	50人 3学級				

4. 市内全小中学校を集約（令和19年4月から）

近年の出生数は急激な減少傾向にあり、今後も同様の状況となることが想定されます。

このため、各地区の小中学校を集約し、小学校1校、中学校1校（もしくは義務教育学校）の配置とし、公平性及び交通の利便性を確保できる場所に整備することとします。

小学校	R14	R17	R19	R22	R25
花輪小学校	315人 12学級	265人 12学級	236人 11学級	202人 8学級	175人 6学級
尾去沢小学校					
八幡平小学校					
十和田小学校	148人 6学級	107人 6学級	88人 6学級	74人 6学級	64人 6学級
大湯小学校					
柴平小学校	91人 6学級	64人 6学級	57人 6学級	48人 5学級	41人 4学級

中学校	R14	R17	R19	R22	R25
花輪中学校	293人 9学級	227人 8学級	185人 7学級	159人 6学級	134人 6学級
尾去沢中学校					
八幡平中学校					
十和田中学校	123人 6学級	86人 3学級	67人 3学級	48人 3学級	40人 3学級

集約

小学校	R19	R22	R25
小学校	381人 13学級	324人 12学級	280人 12学級

中学校	R19	R22	R25
中学校	252人 8学級	207人 7学級	174人 6学級

4. 市内全小中学校を集約（令和19年4月から）

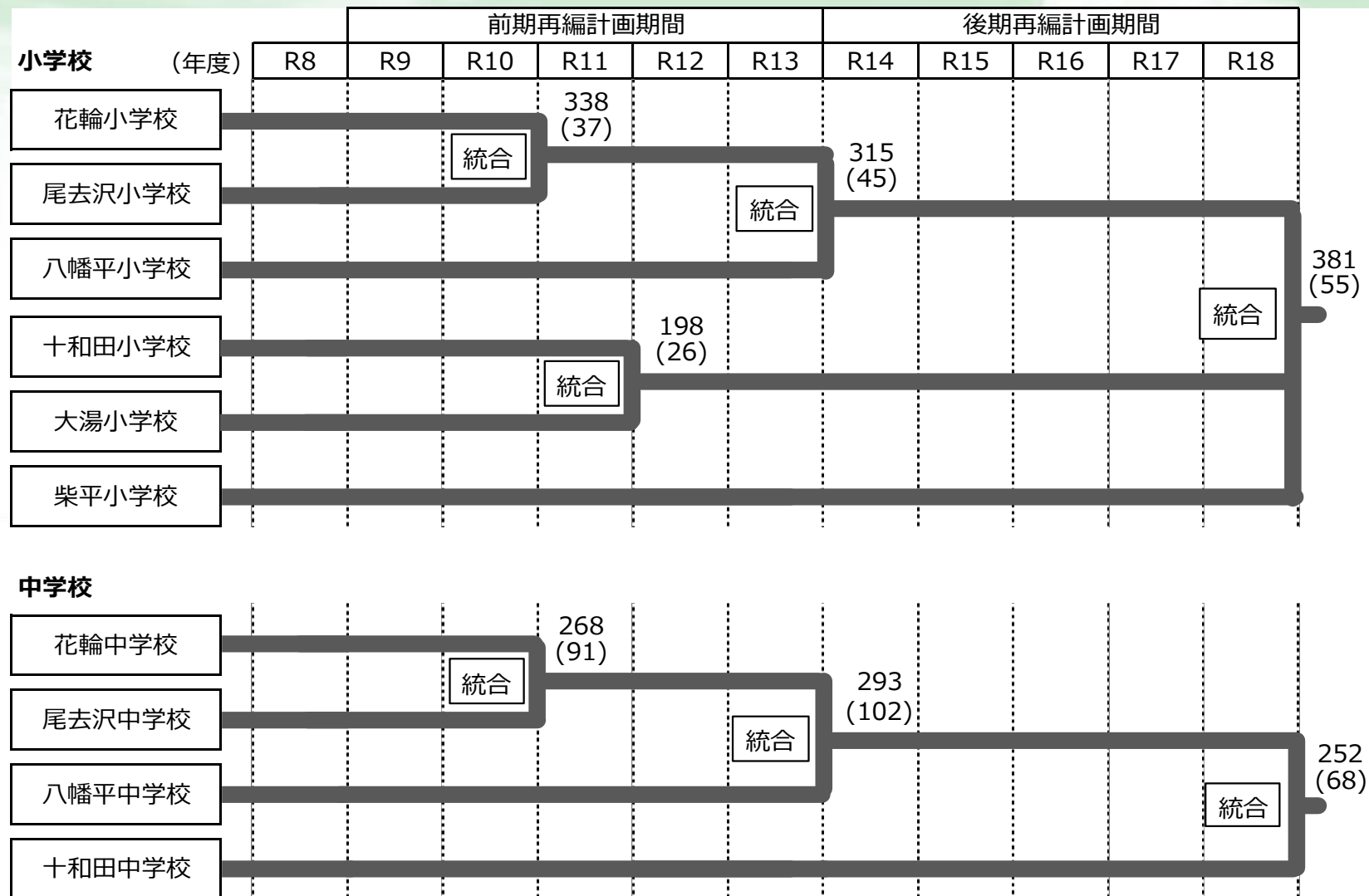
現在、各校が抱える課題として・・・

- ・ 施設の老朽化による設備等の不具合の発生
- ・ 特別教室や体育館への空調設備（エアコン）の設置
- ・ クマの出没による屋外活動の制限
- ・ 学校までの道が狭く、冬期間はさらに狭くなる
- ・ 駐車場の不足による車での送迎時の混雑 など

新たな学校の整備には・・・

これらの課題を解消できる学校を整備することとし、子どもたちにとっても、保護者にとっても安全・安心で充実した教育環境を整えます。

学校再編のスケジュール



※数値は統合した場合の児童生徒数。()内は1年生の人数